

施策評価シート(平成22年度の振り返り、総括)

施策	31	学校教育の充実	主管課	名称	教育課	関係課
				課長	青木 寿	

施策の目的	対象 (誰、何を対象にしているのか)	対象指標名	把握方法や定義など		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度見込み
		①町内の児童(小学生)	①児童(小学生)数	学校基本調査による 毎年度5月1日現在数値		人	1,235	1,175	1,111	1,056
	②町内の生徒(中学生)	②生徒(中学生)数	学校基本調査による 毎年度5月1日現在数値		人	699	679	648	636	615
施策の目的	意図 (対象をどういう状態にするのか)	成果指標名	設定の考え方	把握方法や定義など	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度目標
	①豊かな心・高い知性・健康な身体をもとに活力ある人間に育てる。	①学力テストの結果(児童)	学力テストの結果がよければ、高い知性が育まれていると考える。また、群馬県内や全国において採用率が高いため比較がしやすい。	小2～中3まで、1学期期間中に全員対象で実施するNRTテストで、学習到達度5段階中3以上(概ね到達している)の児童(生徒)の数/児童(生徒)の総数とする。	%	83	83	84	83	
		②学力テストの結果(生徒)			%	84	82	83	83	
		③体力テストの結果(児童)	体力テストの結果がよくなれば、健康な体が育まれていると考える。また、群馬県内や全国において採用率が高いため比較がしやすい。	全学年を対象に1学期期間に実施している新体カススポーツテストで、全国の標準を50ポイントとし、全国比で表わす。	ポイント			50	50	
		④体力テストの結果(生徒)			ポイント			50	50	
		⑤学校が楽しいと感じている児童の割合	学校が楽しいと感じている児童・生徒の割合が増加すれば、豊かな心・高い知性・健康な体が育まれていると考える。	学校評価のアンケートに設問を設けて把握する。各校で実施している調査の年平均を合算して平均する。	%			89	95	
		⑥学校が楽しいと感じている生徒の割合			%			88	88	
		⑦不登校児童・生徒の数	不登校児童・生徒の数が減少すれば、豊かな心・高い知性・健康な体が育まれていると考える。	担当課で実数を把握 不登校児童生徒の問題行動調査による	人	18	19	17	17	

住民と行政との役割分担	1. 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	2. 行政の役割 (町がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと)	
	<p><家庭・保護者></p> <p>①家庭内教育(規範意識、基本的生活習慣、食育、家庭学習の習慣化)</p> <p>②親としての自覚(人間・親としての義務)</p> <p><地域住民></p> <p>①地域への行事やイベントへの計画や参加(子どもと一緒に参加)</p> <p>②地域での子どもの安全性の確保への協力(地域のパトロール等)</p> <p>※地域の子どもの自分の子どものように思ってもらおう。</p> <p>③教育活動への参加(地域人材として学校への協力) 例) 地域企業の社会体験、農業体験等</p>	<p>1) 町がやるべきこと</p> <p>①教育の基本方針を策定</p> <p>②施設整備を含む教育環境の整備・維持管理(建物、スクールバス等)</p> <p>③人事管理(ALTの配置、支援員等の配置、特配の充実)</p> <p>④人材育成(指導主事訪問、三国会における研修等)</p> <p>⑤教育振興事業の実施(小中学校の運営、小中一貫教育、就学支援、特別支援教育等)</p>	<p>2) 国・県がやるべきこと</p> <p><県></p> <p>①県費負担教職員の人事</p> <p>②人材育成(教職員の研修)</p> <p>③教育委員への研修</p>

1. 施策の成果水準とその背景・要因		
1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）	2) 他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）	3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか同程度なのか、低いのか、その他の特徴は？）
<p>①学力テストの結果では、児童・生徒ともに3以上の割合が83%であり、昨年度とほぼ同じ結果となった。しかし、学校別・クラス別にはバラツキはある。学校によっては1学年1人というクラスもあり、振れ幅が大きい。(少人数学校の影響が大きくなる)</p> <p>②体力テストでは昨年度と全体の水準は変わらないが、地区別でみると新治地区が落ちてきている。学校統合にともなうスクールバスの導入の影響が出ていると思われる。</p> <p>③学校が楽しいと感じている児童は、昨年度に比べて6ポイント増加し95%になった。中学生も88%と高い水準を維持している。50人未満の小規模校になるほど楽しいと感じる児童生徒の割合が高くなる傾向にある。中学校では特に水上中学校で高くなった。沼田市とみなかみ町のみ、指導主事が配置されていることも要因として考えられる。</p> <p>④不登校児童生徒(30日以上欠席)の数は17人と昨年度と変わらない。</p>	<p>①偏差値でみるとみなかみ町は52で、全国の水準よりも高い。群馬県は関東地方で最も高く(中学校)、みなかみ町も県と同じ水準である。以前は低かったが、平成16年度くらいから少人数指導体制などの県独自の取り組みをした結果、高い水準になった。</p> <p>②体力テストの結果は全国標準並みにある。しかし、全国的にこどもの体力は低下傾向にある。</p> <p>③学校を楽しんでいる子どもの割合も全国レベルからみると高い。</p> <p>④不登校児童生徒の割合は、全国水準は1.5%、県は1.06%であり、みなかみ町は1.01%で県と同じ水準にある。</p>	<p>※町民アンケート結果によると</p> <p>①教育施設の整備の充実については、半数がよくなったと答えている。</p> <p>②授業内容の充実等、教育体制についても悪くなったと答えた人より、よくなったと答えた人が多かった。</p>
2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括		3. 施策の課題認識と改革改善の方向
<p>施策全体でみると、「教育内容の充実」が比較的貢献度が高かったと考えられる。</p> <p><教育内容の充実></p> <p>①教育委員会事業で、教育委員が指導主事と一緒に各校の授業参観、学校訪問を行い、助言をすることが、各校の教育活動の充実に結びついている。</p> <p>②教育補助事業では、町の予算で職員3名、臨時職員6名の計9名を支援員として配置し、支援を必要とする児童生徒に対応した。</p> <p>③就学指導事務事業は、旧町単位からみなかみ町全体で運営を始め、平成22年度から専門家を入れた検討を行うなど充実させた。支援を必要とする児童が支援員増により安定して授業が受けられるようになった。結果的に児童生徒ひとり一人にきめ細かな指導を行うことができた。</p> <p>④小学校の英語教育の必修化にともない、ALTを平成22年度から1名増の4名とし、訪問指導回数が増加した。また小学校低学年児童も英語に触れる機会ができた。</p> <p>⑤平成22年度より県の食育推進協力調理場の指定を受け、食育担当の栄養士が配置され、各校訪問し給食時に食育活動を展開した。地産地消の推進として、地場産の食材利用度を高めて来ている(地元食材の方がこどもがよく食べる)。保護者に対しても朝食摂取のアンケートと啓発活動を行った。</p> <p><教育環境の整備></p> <p>①校舎の整備では、水上中学校の校舎、体育館を新たに建設した。新築に合わせて太陽光発電設備を設置した。</p> <p>②学校統合によりスクールバスの路線が2路線ふえたため、新たにバスを2台購入した。</p> <p><教職員の資質向上></p> <p>①三国会(みなかみ町小中学校教育研究会)研究事業では、授業研究会に利根事務所から指導主事を派遣してもらい、指導助言を行った。</p> <p>②各校の相談に対して、指導主事を各校に派遣して対応を行った。</p> <p>③県費教職員人事に関する事務事業では、県教育事務所と協議を行い、定数を超える教職員数を配置(特配)した。</p> <p>④みなかみ町は町費で指導主事を配置している。</p>		<p>①就学指導事業、特別支援教育をさらに充実していく必要がある。</p> <p>②体力低下が見られるため、体力増強のための校内活動が必要になってきた。</p> <p>③町の教育投資や水準について、保護者、教職員に知ってもらう。</p>